

平成29年度
卒業証書・学位記授与式 ー学長告辞ー

長かった冬もようやく終わり、高田公園の桜もつぼみが膨らんで、吹き抜ける風に春の独特な香りを感じる頃となりました。

ただいま卒業証書を授与された162名の皆さん、ご家族の皆様、ご卒業誠におめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。また、ご多用のところ、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様にご心より感謝申し上げます。

さて、卒業生の皆さん、本学での4年間に渡る学園生活はいかがでしたか。いろいろな思い出が出来たことでしょうか。卒業生の皆さんが、本日晴れて卒業できますのは、皆さんの努力があったことはもちろんですが、家族、友人、教職員、地域の方々など多くの人たちの支援があったことを決して忘れないでください。

さて皆さんは第4次産業革命という言葉を知っていますか。第4次産業革命と呼ばれる最近の科学技術の発達により、さまざまなモノがインターネットにつながり、それを人工知能(AI)が制御し、ロボットが活躍するようになると言われています。私自身の専門とも関係するのですが、1990年代後半からロボット学会の有志で2050年を目標に、人間のサッカーワールドカップ優勝チームと人間型ロボットのチームが対戦して、ロボットチームが勝利することを目指すプロジェクトが開始されました。当時は、夢のような話でしたが、最近ではジャンプや宙返りをする人間型ロボットが開発されるなど、本当にそれが実現できるのでは、しかも2050年以前に実現できるのではないかと思えるような、急速な進歩を遂げています。

科学技術の進歩、交通や情報網の発達等で、私たちを取り巻く社会は急激に変化し、生活様式や人々の価値観にまで影響を及ぼしています。今の子供達が日本や世界を支える年代になったときには、想像もできないような社会になっていると思われれます。

このような社会の中、子供達には「自ら主体的に学ぶ力、コミュニケーション能力を伴った対話的な学び、論理的思考に基づく深い学び」など、未来を生きるための力を身につけることが求められ、教育現場にもその対応が求められています。子供たちがどのような能力を身につけるかは、教育に委ねられており、教師の責任は重大であると言えます。

皆さんが教師となった時、教師自らが学ぼうとする意欲を持ち続けてください。これはどんな職業でも同じです。自ら学び続けてこそ、子供達に学ぶ楽しさや、学ぶことの意味を、伝えることができます。子供達の学ぼうとする気持ちを引き出すことができれば、子供達はスポンジが水を吸収するように、多くの

ことを自分のものにします。是非、そのような教師になることを願っています。

皆さんは、大学生活の中で、自身が目指す教師あるいは社会人になるために、大学の授業はもちろん、部活やボランティア活動、アルバイトなど様々な形で多くの人々と接し、その中から様々なことを学び、身につけてきたことでしょう。それは、皆さんが教壇に立ったとき、社会人となったとき、必ず役に立ちます。特に教育現場では、これまでに獲得した知識・技能、経験、失敗までもが日々の教育に生かせることでしょう。

本学で学ばれた皆さんは、教師として社会人としての資質能力を十分に身につけて頂いたと思います。どうぞ自信を持って、教壇に立ち、あるいは社会に羽ばたいてください。常に周りからの情報を収集することを忘れず、周囲の人たちとの良好な協力関係を築くよう努力することを、忘れないでください。

時には大きな課題に立ち向かわなければならず、途方に暮れることもあるでしょう。そのときこそ、家族や先輩、友人などの支えが頼りになります。皆さんには、上越で得た友だちや教職員、地域の人たちとの強い絆があるはずです。もちろん大学もゼミ教員をはじめ、いつでも皆さんに門戸を開いています。遠慮なく大学の門をたたいてください。

ところで、日本が国のテーマとして掲げている「地方創生」に関わって、「若者、ばか者、よそ者」という言葉が良く使われます。地域の現状を変革するのは、

「若者」：情熱を持ってチャレンジできる力

「ばか者」：固定観念や過去の慣習に捕われずに、活動に打ち込める力

「よそ者」：外部から物事を客観視して見る力

これらの3つの力が必要であり、全国で地域おこしに成功したところには、必ずこの3種の人材がいる、というものです。この考えは学校をはじめ、全ての社会単位に共通する事柄で、この3つの力が合わさって、成果を発揮することは間違いありません。このうち、皆さんはまず「若者」となって社会に羽ばたくこととなります。経験を積み、いろいろな勤務先・赴任校を経ることで、やがてここで言う「ばか者」や「よそ者」になり、それまで以上に大きな力を発揮するようになるでしょう。

健康に十分注意して、多くの子供たちから慕われ、いつかは先生のようになりたいと思われる教師となってください。皆さん一人ひとりが自らの手で輝かしい未来の扉を開け、人生を充実したものとされるよう心より祈念し、告辞といたします。

平成30年3月19日

上越教育大学長 川崎直哉